

小学生高学年の部



未来へ残したいきれいな水

石巻市立山下小学校 6年 三浦 雪乃

私は、小学校低学年のとき、花を育てていました。花に水をやろうと水道の蛇口をひねり、水を出しました。毎日、水をかけていると母に

「米のときじるをうすめて花にかけるとエコだよ。」

と言われたので、次の日から米のときじるをうすめて花にかけました。そのときは、何も考えずに水やりをしていましたが、小学校中学年になると、学校で浄水場の見学に行き、水道の水がどのようにしてできるかを学びました。配水池から自然流下によって家庭や学校、工場に水が送られるまで、砂やゴミをすめたり、消毒などの作業をして、やっと安心して水が飲めるようになることを知りました。

すると、今まで蛇口をひねればあたりまえに出てくると思っていた水が、実はたくさんの手間をかけていたからこそ、飲めていた水だと気付きました。そこで、世界の水道はどうなっているのかについて興味をもち調べてみました。

地球には、安心して水を飲めなくて亡くなってしまう子どもや、学校に行けずにきれいな水を飲むために、遠くまで歩いて水を運んできている子どもがいるということを知り、とても驚きました。また、世界では、わずか15ヵ国しか水道がある国がないということが分かりました。その記事を読んで私は、今まで何も考えずに使っていた水道の蛇口から出てくる水はとても貴重なもので、恵まれていたということを感じました。

6年生になり理科で「動物の体のはたらき」を勉強しているとき、教科書に「私たち人間や他の動物、植物の体には多くの水がふくまれている、水によってからだのはたらきを保ち、生きている」ということが書いてありました。また、全ての生き物は水をとり入れないと生きていくことができないことを知りました。人間の体の約60パーセントが水で、体重のわずか2パーセントほどの水がなくなると体調が悪くなることから水は人間の体に欠かすことのできないものだと思います。

また、山などでそう難したとき、雨水や水などを飲んでいれば、個人差はあるが、約10日は生きることができるそうです。最高で1ヶ月も生き延びた人がいると知り、とても生命力が強くて驚きました。でもそれくらい、人間などにとって水は大切なのだと思います。

運動会の練習や、体育の時間などでマラソンを走り終えて水を飲んだときに友達と

「元気になった。」

とさげんだこともありました。水はとてもおいしいと思う瞬間でした。

私に水道のない生活は想像できません。例えば水がないと、いつも食べているお米がたけなくておいしいご飯が食べられません。それにトイレを流すことも、お風呂をわかして入ることもできなくなるのです。

今、現在も世界では水を飲めなくて苦しんでいる人がいるということを常に考え、水を大切にしていきたいと思います。また、友達や下学年の子などが水をむだにしていたら、やさしく「今も水を飲めなくて苦しんでいる人がいる」ということを伝えていきたいです。一人ひとりが水のことを考え、今あるきれいな水を守り、未来へ残していかななくてはいけないと強く思いました。